



グリーンポトスニュース

74号：2003年10月

朝晩はめっきり涼しくなり、厳しかった残暑がうそのようです。気は少し早いですが、そろそろ冬の準備もしておきましょう。今月の話題は『インフルエンザ予防接種』です。

インフルエンザ 予防接種

インフルエンザというと、「38~39℃の熱が出て、4~5日寝ていなければならない」こんなイメージがあるのではないのでしょうか。これは、健康成人の症状です。39℃の高熱となれば、健康成人でも、かなりの体力を消耗しますので、これが、体力のない乳幼児や高齢者ではどうでしょうか。生命に危険が及びます。数年前の大流行時、老人ホームなどで、高齢者が集団感染し、多くの方が犠牲になりました。高齢者の場合、高熱に体力が耐え切れず、肺炎を合併します。不幸な場合、死亡するケースもあります。また、乳幼児は、免疫が未熟なため、重症化します。時に、脳炎を起こします。インフルエンザ脳炎は、時に死に至りますし、脳に重篤な後遺症を残すことがあります。

インフルエンザ予防注射は、これらの合併症を予防します。健康成人の場合、感染予防効果は70~90%です。老人ホームの感染防止効果は、30~40%になりますが、入院を防止する効果は50~60%、死亡を防止する効果は80%に及びます。乳幼児においては、予防接種をした場合、脳炎は、発生しておりません。



インフルエンザになれば、学校や会社を休まなくてはなりません。仕事を休めない方や、特に受験生は、1~2月は受験にとって一番重要な時期になりますので、必ず接種しましょう。体力のない高齢者は、肺炎にならないため、免疫力が不完全な乳幼児は、脳炎にならないためにぜひ、インフルエンザ予防接種をしましょう。

インフルエンザウイルスは、毎年、抗原型を変えます。現在、WHO(世界保健機関)が中心に国際的な協力の中で、ウイルスを同定するため、的中率が上がってきています。ここ数年は、ワクチンと流行株は一致しております。また、合併症も低く抑えられていますので、安心して接種してください。

かめざわクリニックでは、毎年10月中旬より接種をしております。気軽にご相談ください。